



## 夏休みに向けて

いよいよ体育大会が一週間後に迫ってきた。この時期天候の心配をしなくてよいのは何よりで、準備の方も順調に進んでいるに違いない。ただし、あまりハッスルしすぎてケガをしたり、授業が睡眠学習になったりしないように注意すること。国語科でも、1・2年生は「授業中ちょっと疲れ気味である」ということが話題になるが、3年生はそんなことは言ってもらえない。自覚を待ちたいところである。

\*

夏休みの講習で国語科が使用するテキストを販売する（現代文も古文も漢文も、すべて同じテキスト）。全12回分の過去問と、その詳しい解答・解説、練習用のマークシート、古典については品詞分解や書き下し文までついたもので、講習で扱えなかった部分についても、しっかり独学できるように選んである。見本本も国語科に届いたので、興味のある人は、私かI田先生にいつて手にとって見るとイイだろう。その厚さに「いよいよか…」といった感慨も生まれるかも知れない。注文する冊数を確定したいので、今週中に私かI田先生まで申し出てほしい。12日（土）の模試の日、あるいは14日（月）の昼休みに販売する予定である。価格は●●円。

ちなみに、すでにセンターの過去問集を持っている人は買う必要ないが、夏期講習では主に「追試」を利用することになるので、自分の持っている問題集に「追試」が入っていない場合は購入してほしい。

間もなく、英・数のテキスト販売も行われると聞いている。着実に「夏休み」が近づいてきた感じである。

\*

しかし、「夏休み」と聞いて「休み」のイメージを持つ人はいないだろう。「とうとう頑張らねばならない時が来た!」といった感じで武者震い?だろうか。

よく「夏は受験の天王山」と言われるが、日比谷生にとっては、星陵祭が控えていることもあって、そう計画通りにはいかないのが夏休みである。すでに2年間、日比谷の夏休みを体験しているから、その辺のことはそれなりに分かっていると思うが、今年はその2年間の経験を生かして、実行できる計画を立て、しかもそれを実行することが大切だ。

- ①あまりたくさん詰め込まず、余裕のある計画にする。
- ②具体的には、一週間7日の計画を立てるのではなく、6日くらいにしておいて、計画の確実な実行をはかる。
- ③1日10時間×40日の400時間を目指したいが、それが無理なら「量より質」を考える。
- ④「質」を高めるには、復習に重点を置き、やったこと(出来ること)を確実にする。
- ⑤400時間の表を配るから、黒で塗りつぶすなどして視覚面からも達成を目指す。
- ⑥隙間の時間を活用できる教材を用意する（一問一答とか、イディオムとか…）。

といったところであろうか。

やたらに講習を選択しても、その予習・復習がこなせないなら意味はない。「あ～●●の復習をしたいなあ」と思いながら講習に出席していることほどバカらしいことはない。自分のやるべき課題をしっかりと確認しよう。